

新型コロナのおかげで、全てが「はじめて」だらけの1学期が終わり、12日間と短いながらも夏休みである。当初に連絡したとおり、通信表は十分な学習の評価が整う10月にお渡しするので、最後の最後までしっかり授業することができた。その意味では余裕があったとも言えるが、子供たちはもちろん、私たち教職員も「くたびれた」というのが実感だ。

長い梅雨の時期を鬱々と過ごしたかと思ったら、熱中症警戒体制…。クラスによってはプールの代わりに、「水かけあそび」を計画していたようだが、「暑さ指数」が「警戒」レベルでは休み時間に屋外に出すことすらできなかった。

全校児童に1学期の振り返りアンケートを実施したところ、長い臨時休業中は「つまらなかった」（友達と会えなかった・友達と遊べなかった…）と答えた児童が多かったが、「楽しかった」と答える児童も一定数いた。「自分のやりたいことができた」「自分で時間を自由に使えた」という理由である。

今までの学校ができなかった、一人一人の学び方を重視した「新しい学習スタイル」の可能性が見えたように思った。コロナ禍は当分、続くであろうが、終息後の学校は「元の学校」であってはならない。

ICT機器を活用しながら、協力して課題に向かう「協働型の学び」が創られなければならない。

今日は「立秋」である…。昔の暦では秋が始まるのに、学校は夏休みが始まる。